

# 令和6年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業 北海道地方ブロック中間共有会 資料

## 活動団体の活動におけるテーマ

『サステナブルツーリズムを取り入れた滞在型観光の促進  
ー 環境・観光・子育て教育・定住を統合した取り組み』

活動団体の活動地域：北海道天塩郡豊富町

活動団体名：一般社団法人 豊富町観光協会

中間支援主体名：学校法人 北海学園大学

## 活動団体と地域の紹介

豊富町観光協会は、豊富町や宗谷管内を中心とする地域の観光宣伝及び観光客誘致促進等に努めることにより、観光産業の健全な発展を図り、併せて地域の産業経済の発展に寄与することを目的として活動している。

豊富町の主な観光地は、利尻礼文サロベツ国立公園に指定された**サロベツ湿原**、源泉に油分を含みアトピーに効能がある**豊富温泉**、壮大な牧草地帯が広がる**大規模草地**などである。2024年に「**ヘルスツーリズム認証**」を取得したことにより、健康増進を推進する道内の企業が、福利厚生などとして豊富町や豊富温泉を利用しやすくなるよう取り組みを進めている。



# 活動計画（概要）

地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

地域課題を克服する視点は、①**観光産業の拡大と閑散期の解消**によって雇用の創出、地域資源を活かした地域経済循環の強靱化、②**コミュニティでの対話の場づくり**、③**教育や子育て**において外部からの刺激により、子どもたちの地元愛を育む、である。

地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

町内には、本事業に関わる観光や教育子育ての分野において、事業者やNPOなどの「点」は20～40程度存在している。**キックオフイベント（7/3開催）**やワークショップを通じて、これらの「点」を「面」に広げていく。将来的には地域おこし協力隊制度等を活用し、活動団体内部（または外部）に**コーディネーター**を設けることを目指す。

ローカルSDGs事業として取り組む内容

本事業のキックオフイベントやワークショップ等での議論から生み出していく。想定している事業は、湯治客や企業職員、大学生等に豊富町との関わりを深めてもらい、また、住民にとっても持続可能な地域づくりにつながる、**地域活動への参画や交流等を行う「サステナブルツーリズムを取り入れた滞在型観光」**である。

地域の現状

豊富町は、急速に進展する少子高齢化や地域の人口減少、経済の縮小という過疎問題に直面し、地域課題の解決に向けて地域産業の創出と維持発展が欠かせない。主要産業の観光業は**通過型観光**であり、宿泊者数の増加、冬期の閑散期の解消が課題である。その打開策が、地域資源を活かした**ワーケーションや湯治といった滞在型観光**の潜在的な掘り起こしである。

2

## 活動状況（計画の進捗状況）

### ■7月3日 豊富町キックオフミーティングの開催

これからの豊富町の地域課題とその解決策の検討を行い、豊富町の子供たちが未来をワクワクできる、そんな豊富町を地域全体（協働）で作りにあがるためのスタートとするために実施  
（目的） 仲間づくり、地域課題の洗い出し・解決策の検討

（参加者） 教育関係者・酪農家・温泉宿泊事業者・子育てサークル・現役子育てママさん  
観光ガイド事業者 計11名

### ■8月22日～9月25日 大学生を招聘しての豊富町インターンシップの実施

道内・道外の大学より学生を豊富町へ招聘し、豊富町の主産業・生活・教育について体験、理解をしてもらい、若者の感性を活かした多種多様な観点からアイデアを生み出し、そのアイデアを教示いただき、地域づくりへ活かしていくもの

（目的） 若者視点から見た豊富町の可能性やアイデアについて教示、学生も地方創生の学びや他学生との交流を図る。

（参加校） 北海学園大学、大阪成蹊大学、久留米大学

### ■10月16日 第2回ワクワクとよとみ未来会議の開催

7月3日のキックオフに続き第2回目を開催し、名称を「ワクワクとよとみ未来会議」と称した。1回目での内容をもとに更に深掘りを行った。

仲間づくりの部分でも新規参画者を大幅に増やすことができ、今後の地域づくりへの基盤を作成できた

（目的） 仲間づくり、地域課題の更なる深掘り・解決策の検討

（参加者） 教育関係者・酪農家・温泉宿泊事業者・子育てサークル・現役子育てママさん・町内飲食店事業者・環境団体・観光ガイド事業者 計17名（6名新規参加）

3

# 活動状況（計画の進捗状況）

## ■ 第1回豊富町キックオフミーティング



## ■ 第2回ワクワクとよとみ未来会議



4

# 活動状況（計画の進捗状況）

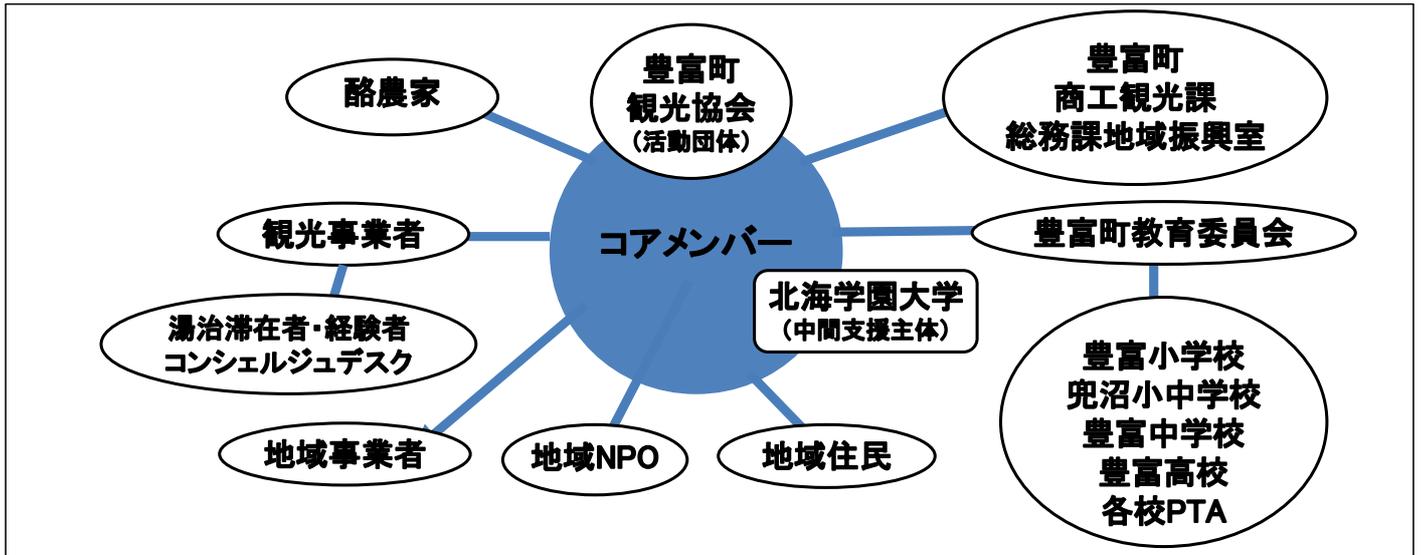
## ■ 大学生インターンシップ



5

# 目指す“地域プラットフォーム”のイメージ

※これから参加を呼びかけていく組織や個人が含まれています。



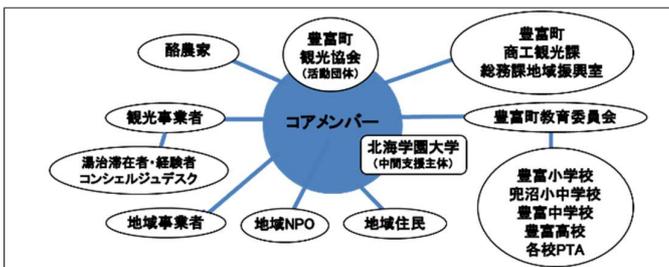
足りない資源（ヒト、モノ、資金、情報、等）※地域内、外も含む

- ・ 地域体制の構築（町民参加を推進する仕組み等）
- ・ 地域全体の意識の共通
- ・ 地域資源の活用法ノウハウ、情報
- ・ 地域外からの視点

6

## 現在の“地域プラットフォーム”

### ① 現在の地域プラットフォーム



### ③ 地域プラットフォームづくりで困ったことや課題

- ・ 意見交換会では、参加者の間で地域課題の洗い出しと共有化ができたが、事業化の糸口が見えるのはまだ先になりそうだ
- ・ 地域の核となる人や組織はまだ存在しており、声かけを継続していく必要がある

足りない資源（ヒト、モノ、資金、情報、等）※地域内、外も含む

- ・ 地域体制の構築（町民参加を推進する仕組み等）
- ・ 地域全体の意識の共通
- ・ 地域資源の活用法ノウハウ、情報
- ・ 地域外からの視点

### ② 地域プラットフォームの進展、変化

- ・ 今年度はプラットフォームの形成を目指しており、意見交換会を2回開催したことで、地域の課題や魅力を洗い出すことができた
- ・ 今夏に大学生の地域インターンシップを実施したことで、受入事業者にはインターンシップの意義と課題を認識してもらえた

### ④ 課題解決に向けた今後の展望

- ・ 意見交換会では、教育や子育てが地域課題と認識されており、今冬に先進事例を視察して今後の活動に活かしていく
- ・ 来年度の大学生の地域インターンシップのプログラムを改良し、受け入れ先を拡げていく必要がある。来年3月までには、募集要項を策定して募集を始めていく予定

7

# コンセプトペーパー（マンドラ）案

## 地域資源

- ・ 豊富温泉（湯治によるアトピーの治療）
- ・ サロベツ湿原、壮観な景勝地（大規模草地、利尻富士）
- ・ 酪農、乳製品の六次産業化（バター、ジェラート、スコーン他）
- ・ 活躍するヒト

## 地域課題

- ・ 若い人が少なく、人口減少が進んでいる
- ・ 中学・高校卒業後に地域を離れ、ほぼ戻らない（地元愛を育むことが必要）
- ・ 魅力がある職が少ない（今後は人手不足でより深刻になるかも）
- ・ 通過型観光であり、滞在型観光を増やしていくことが急務

## ありたい未来

- ・ 子どもたちがワクワクする地域を築き、継承していくこと

## 取組・成果

- ・ 「わくわくとよとみ未来会議」の開催で、地域課題や地域の魅力を共有化
- ・ 「地域インターンシップ」で大学生を受け入れて住民と交流・対話を実施

8

## 3か年状態目標

### 2026年度末の状態目標

#### 【活動団体】

- ・ 大学生等が参加するサステナブルツーリズムを取り入れた滞在型観光の事業を実装する。
- ・ プラットフォームに参加しているステイクホルダーのつながりを維持・発展させ、地域循環共生圏づくりを継承する。

#### 【中間支援団体】

- ・ サステナブルツーリズムを取り入れた滞在型観光の事業の実装に向けて支援を継続していく。
- ・ 大学教育として中間支援者の育成プログラムを運用していく。

### 2025年度末の状態目標

#### 【活動団体】

- ・ サステナブルツーリズムを取り入れた滞在型観光の事業を検討し、実施を試みる。
- ・ プラットフォームに参加しているステイクホルダーのつながりを発展させ、先進事例の教訓を活かした地域循環共生圏づくりを検討する。

#### 【中間支援団体】

- ・ サステナブルツーリズムを取り入れた滞在型観光の事業の実装に向けて、円滑な遂行を支援する。
- ・ 大学教育として中間支援者の育成プログラムを検討する。

### 2024年度末の状態目標

#### 【活動団体】

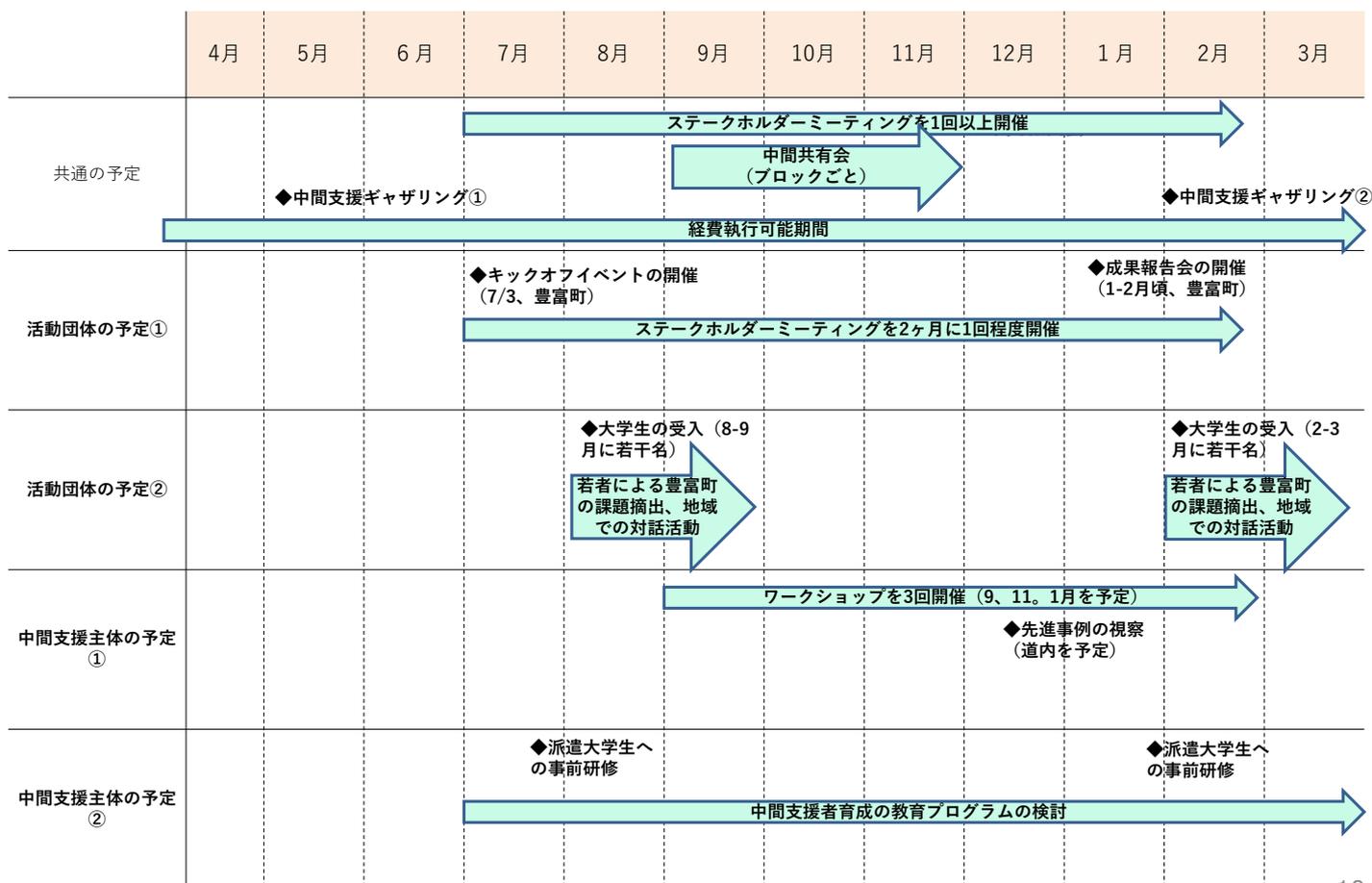
- ・ キックオフイベント開催による仲間・チームを作り、地域課題の共有とあり方、活動目標の練り上げを実施
- ・ 大学生向けの教育体験・滞在中を実施し、当該地域の産業・生活・教育の実情を知ってもらい、豊富町の課題点や既存資源の活用法を新たな目線から助言、明らかにして行く事により、地域づくりのキーポイントを発掘し今後の地域づくりに発展させる。

#### 【中間支援団体】

- ・ キックオフイベントを開催し、ファシリテーター役として地域課題の洗い出しや解決策の議論、今後の活動計画の共有等の議論を円滑遂行
- ・ 上記イベントで出た論点や疑問点に対応するため、先進地での現地調査を行い、ノウハウの取得、中間支援事業をパワーアップさせる。

9

# 活動計画



10

## 中間支援主体より

### 中間支援主体の紹介

北海学園大学は、5学部、6研究科に約8,500名の学生・大学院生が在籍する総合大学である（札幌市に所在）。

**開発研究所**は、経済・経営・法学・人文・工学の各学部教員130名以上と学外の研究者が参加し、北海道における地域開発研究の中心として「地域に貢献するシンクタンクの機能」、「開発資料センターとしての機能」、「国際的共同研究機能」を果たすことを目指している。また、**地域連携推進機構**は、いかに持続可能な地域と自治体を創造していくか、地域課題解決のため「地域と大学のマッチング」に取り組んでいる。本学は、2021年に豊富町との間で「**包括連携協定**」を締結した。

### 活動団体の取組へのコメント、中間支援の方針・計画

#### ■見立て

豊富町内での観光産業、教育・子育て活動、環境保全活動などでは多様な主体が取り組み、所定の成果をあげている。しかしながら、これらの活動は、領域毎に取り組まれているいわば「**点の状態**」であり、分野横断の「**面の状態**」に再構築すると、より効果的で相乗的に地域課題の解決に向けて取り組むことができる。

観光協会は、適切な支援を得られると、異分野の教育・子育ての要素を絡めて活動を拡げていく可能性を有している。

#### ■打ち手

本事業に関わる担い手は町内に多数存在している。「面の状態」に拡張するための仲間づくりが課題である。そこで、中間支援の打ち手は2つを準備している。

- 1) **大学教員は専門的な知見**をオーダーメイドで提供する。また、地域での**コーディネーター**や**ファシリテーター**を担う。
- 2) **大学生**は豊富町に1-2週間滞在して**体験活動に従事**し、産業や生活、教育の実情を知り、住民や関係者と交流し、**コーディネーター**や**ファシリテーター**を担う。

## 中間ふりかえり（活動団体）

### 気づきや発見

- 地域への課題解決を考えている人、地元を変えようと思う人が大変多く、今回の活動をきっかけに共通意識をもつ「仲間」がたくさんできた。
- この町に住んでいては気づけない良い所、課題点を知ることが出来た。  
(外からの視点・気づき)

### 課題や悩みに感じていること

- 官民の連携、行政の理解を得る事が難しい  
(短期的な実績を期待される)
- 地域課題への取組の温度差

## 中間ふりかえり（中間支援主体）

### 気づきや発見

- 想像していた以上に、地域の核となるヒトが多く存在している（40人以上?）。
- 今後、小中高校との連携を進めていく際に、教員の異動で活動が停滞しないように手を打つ必要がある。

### 課題や悩みに感じていること

- 地域課題の解決につなげるSDGs事業をどのように作りだしていくべきか。
- 地域インターンシップに参加する学生の確保と養成プログラムの開発と実践。また、大学生に地域づくりを俯瞰的に理解させることの難しさ